

ココロ踊る！山麓生活のスヌメ(第3回)

私たちの理想郷を求めて

2021.06.18

理想の場所だと思われた中古住宅の契約が白紙になって間もなく、無事にガクが生まれた。しばらくは「ミルク！」「おむつ！」「ミルク！」と夜も昼も容赦なく泣いて求める新生児の世話に必死で、移住どころではない。しかし、数カ月たって、少しは育児に慣れてきた頃に活動を再開。再び、休みのたびに移住先探しをするようになった。その頃には、めぼしい中古住宅はすでに売り切れていたのので、土地探しに切り替えた。まっさらな土地に家を建てるとなれば、中古住宅より金銭的にも精神的にも負担は大きくなるが、それはそれで夢が膨らむ。

自分たちが求めるのはどんな場所？



山間部の土地にターゲットを絞って移住先を検討。写真：南アルプスの鳳凰三山と山麓の北杜市武川(むかわ)

山梨の中央部は典型的な盆地地形で、住宅街はその中に集中している。一般的には生活しやすい盆地内の土地に人気があるけれども、私たちは自然豊かな場所がよかったし、夏の酷暑を避けるために、盆地の外側にある山間部がいいだろうと考えた。そのほうが、地価がだいぶ低いということもある。

場所探しをする中で聞いた不動産会社や住宅メーカーの話では、山梨の市街地の場合、70坪ぐらいの土地に延べ床面積35坪ほどの家を建てるのが平均的なスタイル。2階建ての家なら、車2台分の駐車場と、ちょっとしたグリーンを楽しめる庭が造れる広さだ。生活するにはそれで十分だけれど、私は家庭菜園をしたいので、もう少し広い土地がいい。山間部なら地価は市街地の半分以上の所が多い。同じ予算なら倍以上の広さの土地を購入できることになる。

当然ながら、山の奥へ行けば行くほど地価は下がる。「ポツンと一軒家」ではないが、山好きの私たちは、山に近くて静かな所がいいと思っていた。その頃すでにテレワークが進んで、私は仕事で東京へ行くことがまったくなくなり、インターネットさえあれば、どこでも仕事ができる環境になっていた。

でも、夫は会社勤めのビジネスパーソン。業務の内容から夫の仕事はテレワークにはなじまず、毎日の通勤を考えると、山奥にこもるわけにはいかない。それにガクが成長したときには、近くに学校があったり、同級生がいたりしたほうがいい。土地を見て回るうちに、私たちが希望する土地のイメージがだんだんと具体化してきた。

1時間以内で無理なく通勤でき、学校やスーパーが近く、それでいて自然環境がよくて、さらには素晴らしい山岳展望が得

られる所(これが一番重要)、という条件で探すうちに、北杜市に絞られた。



検討時の必須事項はハザードマップの確認… 続きを読む